

B-1 基礎的な技能の習得を図るための指導の系統性

< 2年間を見通した製作の題材配列 ～ (3) 生活に役立つ物の製作と活用～ >

		5年		6年
題材名 (時数)		わたしにできることを やってみよう	布で作ってみよう	生活を楽しくする物を 作ろう
		わくわくソーイング (12時間)	ミシンソーイング (12時間)	アイデアソーイング (11時間)
他 と の 関 連		(1) 家庭生活と家族 (2) 衣服への関心	(1) 家庭生活と家族 (2) 衣服への関心 (8) 家庭生活の工夫	(1) 家庭生活と家族 (6) 住まい方への関心 (7) ものや金銭の使い方 (8) 家庭生活の工夫
大 形 大 き さ		小さい物	やや大きい物 平面	目的に合った 形・大きさ
簡 単 な 縫 い 方	玉結び	◎	○	○
	玉どめ	◎	○	○
	並縫い	◎	◎	◎
	返し縫い	○	○	○
	かがり縫い	○	○	○
	ボタン	◎	○	◎
	ミシン		◎	◎
作 品 例		ネームカード 当番表 マスコット マイふきん(さしこ) 小物入れ	ランチョンマット クッション まくらカバー ティッシュボックスカバー 前掛け	ナップザック 手さげぶくろ かばん ウォールポケット エプロン

基礎的な技能の習得を図るためには、系統性を考慮して計画を立て、繰り返し学習する場を多く設定する必要がある。子ども達の製作意欲を高め、持続させるためにも、実態に合わせて、楽しい題材の配列を工夫していく。

上記の配列例では、2年間を通して、その題材で重点的に指導する縫い方(◎)を明確にした。もちろん、5年生で習得した技能は、6年生の製作活動に活用され、さらに発展していく。

作品については、児童の実態を踏まえ、興味・関心だけでなく、製作後の活用という点も考慮していきたい。製作して終わりというのではなく、その後の生活に活用していくことで、生活をよりよくしようとする意欲と実践的な態度の育成につながると考える。